

# 音楽創作活動における「やりくり」授業 ～地域 PR ソングづくり～

奥村 理恵

鳥取大学附属中学校 音楽科

E-mail: okumura\_re@tottori-u.ac.jp

**OKUMURA Rie (Tottori University Junior High School): “YARIKURI” classes in the activities of music creation. — Creating regional PR songs.**

**要旨** — 生徒が持っている知識や経験を活用し、正解のない課題に仲間と協働的に取り組み、主体的に音楽表現していくための題材として、「地域 PR ソングづくり」を設定し、その授業を実施した結果を考察した。生徒の取り組みの様子や授業後のアンケートから、読譜力や演奏技能が向上し、音楽表現の理解が深まることが確認できた。以上の内容を報告する。

**キーワード** — やりくり、非定型の問題、主体的・創造的な学習、深い学び、音楽創作

**Abstract** — I conducted classes “Creating regional PR songs” as the subject of proactively expressing music, utilizing knowledge and experience of which students already have, and challenging collaboratively with peers to the issues with no fixed answers. This paper reports results of the classes. It was confirmed that both the score-reading skills and musical performance skills of the students were improved, and students’ comprehension of musical expression was also amplified after the classes, by analyzing questionnaires made after the classes.

**Key words** — managing, atypical problems, proactive and creative learning, deep learning, music creation

## 1. はじめに

平成 29 年告示の中学校学習指導要領では、音楽科の目標として、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」が目指されている。

また、この資質・能力の育成に向けて、「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。」が求められている。

中学校学習指導要領の〔共通事項〕の中では、「①音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えること」、「②音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などに

いて、音楽における働きと関わらせて理解すること」(文部科学省 2017)、と記されている。

音楽創作の学習においては、どのように創作・表現するか試行錯誤したり、作品のよさ・美しさは何かなどについて考えたりする活動が不可欠である。この活動が学習として意味あるものとなるためには、生徒が音楽を形づくっている要素を知覚・感受しながら、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音や音楽を捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、文化などに関わらせることが重要である。このような見方・考え方を、音楽の学習を繰り返す中で豊かなものとし、生涯にわたって音楽を愛好し、音楽に主体的に関わっていくことに有効に働くものとしていきたい(教育課程研究会 2016)

## 2. 目的

本研究では、2019 年度鳥取大学附属中学校研究主題である“学力を育む「やりくり」授業の開発”に基づき、生徒が自主的に思考し、工夫

して学習するための授業題材として「地域 PR ソングづくり」を設定した。音楽に対する意識や取り組み方の変化から、音楽教育への有効性を考察する。

### 3. 研究方法

#### 3.1 授業題材の条件

本校研究概要に示されているポイントは以下のとおりである。①授業の中で提示する問題やその解法を非定型とする。②問題の最適解について、新たな知識を提示して教え込むのではなく、生徒自身に試行錯誤させて、導き出させる。③生徒が最適解を導き出すための意欲を引き出す環境を整備する(鳥取大学附属中学校 2018)。このポイントを満たすように題材を設定した。

#### 3.2 題材の設定

まず課題として旋律の創作を設定した。このことにより、授業題材として①②を満足させることになる。題材のねらいとしては、言葉のリズムと抑揚及び音のつながり方の特徴を、表したいイメージと関わらせて理解し、音楽表現を工夫して旋律をつくることとした。教材として、「鳥取」をテーマにした自作の詞を用いることとし、さらに、旋律の伴奏として、図 1 に示す「カノン/パッヘルベル作曲」で使われているコード進行を用いることとした。「鳥取」についてのイメージや自分たちの思いを歌詞に織り交ぜることで、生徒が言葉の抑揚やまとまりを捉えやすく、それらを生かした旋律がイメージしやすいと考える。また、決められたコード進行の中であっても、音のつながり方、リズムの組み合わせ方等によって、音楽は様々な表情をもち、限りなく広がっていくという面白さを、試行錯誤の中で実感させたいと考えた。自分たちのふるさと「鳥取」をテーマとして扱うことで、音楽と社会、生活、伝統、文化などを関連付けて考えさせ、さらに、音楽の諸要素とその働き、それらが生み出す雰囲気を音楽活動の中で実感させ、気付いたことや感じたことを共有し、考えを広げていくことで深い学びにしたいと考えた。

また、③については、自分たちの住むふるさと「鳥取」を県外の方や海外の方へ PR することを目標とすることで主体的に学習に取り組む姿につなげ

たいと考えた。郷土の資料を自由に手に取ってイメージを膨らませることのできる環境を整え、創作のヒントをワークシート・掲示等で示したり、自由に音を出すことのできる環境を整えたりした。



図 1. カノンに用いられる和音進行

#### 3.3 授業実践の対象及び学習状況

本研究は第 3 学年の生徒を対象の中心とした。単旋律の創作や、和音や和声の学習については、2 年生時に取り組んできている(奥村 2019)。また、昨年度より、授業の初めに簡単なリズム創作やリズム叩きの学習に取り組んできた。創作活動を行うにあたり、音を試す際に使用する楽器の一つであるアルトリコーダーについては、昨年度より 8 小節程度の様々な楽曲を演奏してきた。しかし、読譜や記譜については慣れていない生徒が多く、器楽の学習の際にはカタカナで記入した階名のみを見て演奏している生徒も多い状況であった。

#### 3.4 学習環境の整備

創作にあたり、音を試す方法として、アルトリコーダー、4 人グループで 1 つの電子ピアノ、i Pad のうちいずれかを自由に使用できる環境を準備した(図 2)。



図 2. リコーダーや電子ピアノを用いた学習の様子

リコーダー演奏を苦手とする生徒に対して、i Pad のアプリ「Garage Band」(図 3)を用いることにより、演奏技術に依存せず、気軽に音を出して試そうとする意欲を高めることをねらって学習環境を整えた。「Garage Band」では、予め教師が記録しておいた伴奏を自分たちで再生し、何度も聴きながらコードに合わせて演奏したり、録音して聴いてみたりすることが可能である。さらに、i Pad を

用いることで、中間発表の際、Air Drop を使用して、生徒の創作した楽譜写真を学級全体で共有することが可能である(図 4)。

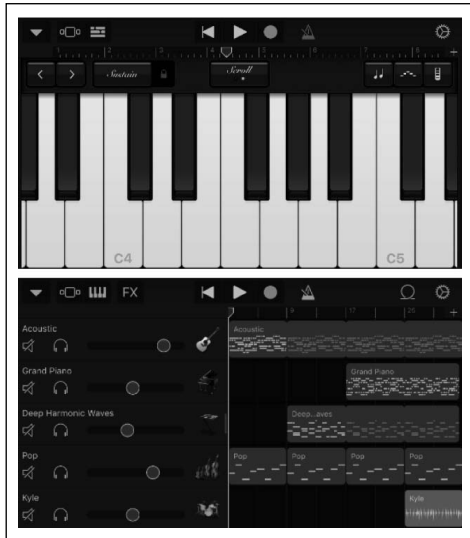


図 3. iPad アプリ「Garage Band」



図 4. iPad を活用したグループ学習の様子

また、グループで創作した作品を中間発表で披露し、他グループからのアドバイスを受けて自分たちの作品を再考する場面で、音の変更点やさらなる工夫点に分かるよう、ワークシートを透明フィルムではさみ、その上からホワイトボードマーカーで変更点を記入できるよう教材を準備した。裏面はマグネットになっており、黒板にワークシートを簡単に提示することができる。学習評価の参考にすることもできる。

さらに、図書館と連携し、郷土に関する資料を多数用意し(図 5)、生徒が自由に手に取りイメージを膨らませることができるようにした(図 6)。



図 5. 郷土に関する資料



図 6. 資料を活用した話し合い活動の様子

その他、既習の学習事項を板書や音楽室内の掲示物で提示し、生徒が創作のヒントとして活用できるようにした(図 7)。

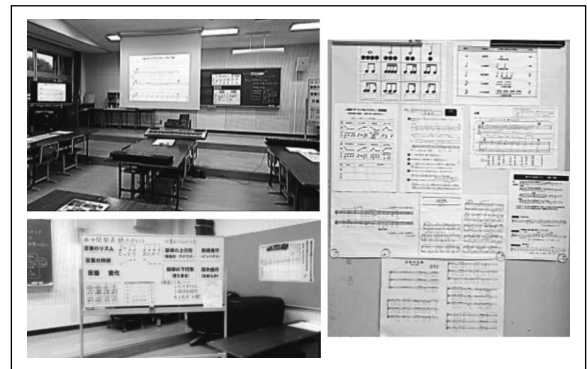


図 7. 授業の板書・学習の手立て

### 3.5 学習の流れ

#### 第 1 時：◎言葉のリズムや抑揚、音のつながり方の特徴に関心をもつ。【個人】

- ①テーマ「鳥取」から連想するものをイメージマップに書く。
- ② 8 拍におさまる鳥取をテーマにした歌詞を考える。
- ③ワークシートに、歌詞とともにリズムを書き込む。さらに、つくった歌詞の抑揚を調べて星座表に書き込む。
- ④言葉のリズムや歌詞の抑揚を生かしてハ長調の旋律をつくり、五線譜に記譜する(図 8)。

- ⑤工夫した点を伝えてから創作した歌を発表し、工夫点がどのような効果をあげていたか意見交流をする。

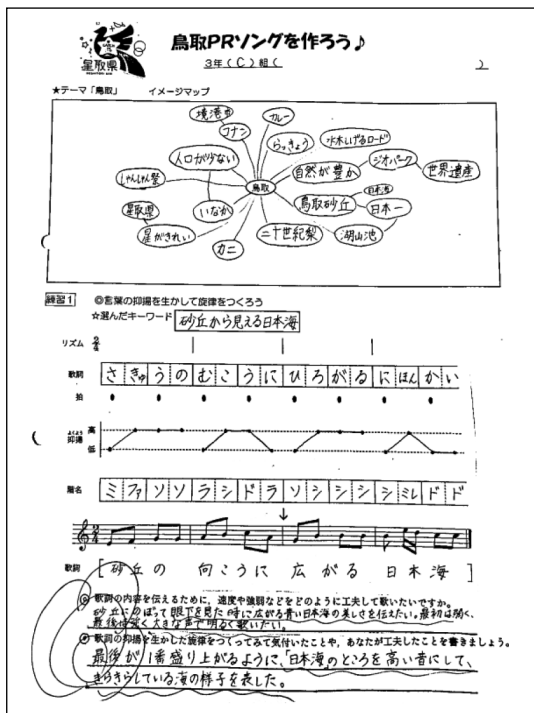


図 8. ワークシート (第1時)

第2時：◎4分の4拍子8小節におさまる歌詞とリズムを考える。【ペア→グループ】

- ①参考曲「花／滝 廉太郎作曲」「春が来た／岡野 貞一作曲」「ひまわりの約束／秦 基博作曲」を鑑賞し、リズムの反復・変化や音のつながり方について知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。
- ②グループで PR したいテーマを決定し、8小節におさまる歌詞を考える。
- ③言葉のリズムやまとまりを生かしてリズムを創作し、ワークシートに書き込む(図9)。

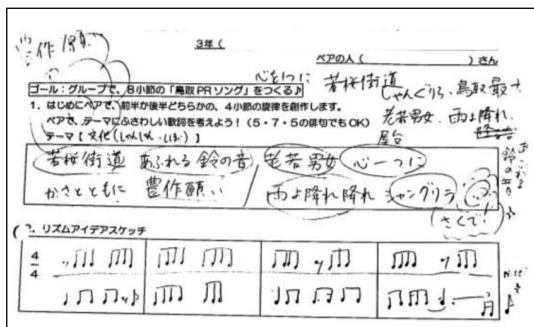


図 9. ワークシート (第2時)

第3時：◎言葉のリズムや抑揚を生かして旋律を創作する。【グループ】

- ①創作した歌詞の抑揚を調べて星座表に書き込む(図10)。
- ②iPadで伴奏を聞きながら、アルトリコーダーや鍵盤楽器で様々な音のつながり方を試し、ワークシートに記入する。

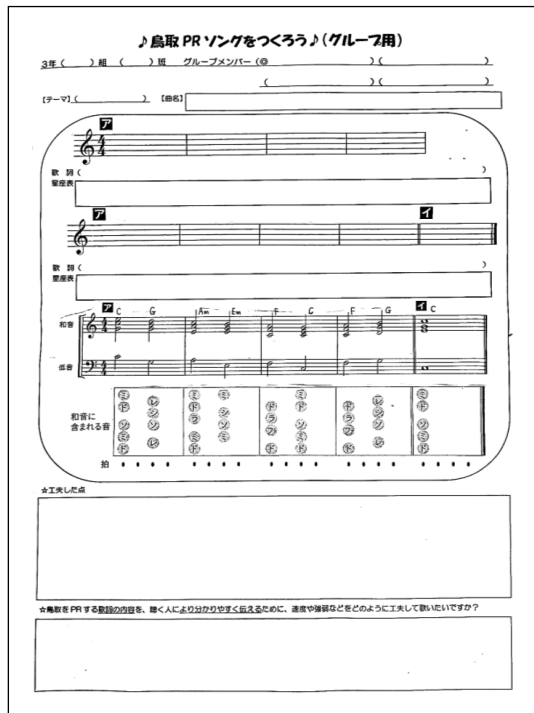


図 10. ワークシート (第3時)

第4時：◎中間発表を通して、他グループの良さや工夫点をとらえ、自分達の作品の創意工夫に生かす。【全体→グループ】

- ①中間発表を通して、他グループの良さや工夫点を見つけ、付箋紙に記入してグループで共有する。さらに、クラス全体でも伝え合う(図11、図12)。
- ②自分たちの作品を再考しながら練習をする。

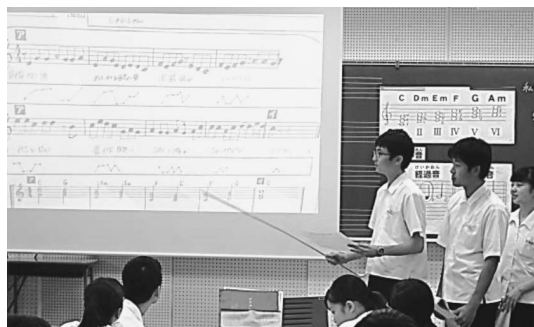


図 11. 中間発表の様子

(1) 進へ (2) 進より

**♪鳥取 PR ソングをつくろう♪**  
～他グループの良い点・工夫点を見つけよう！  
さらに、アドバイスを送り合って、よい音楽をつくりあげよう～

<p><b>言葉の抑揚の生かし方</b> (歌いやすいかな?)</p> <p>文字が少なすぎて抑揚が 出にくいかなと見えていたから と音節でかいて書いて歌いやす そうを見たと思いました。</p> <p>音程が少し高いのでも少し 低くしても良いと思います。</p>	<p><b>リズム(言葉リズムの生かし方・ 反復・変化・強弱の感じ)</b></p> <p>7-7-7-7を繰り返してリズムが おもしろい曲でした。</p>
<p><b>音のつづかり方(上行形・下行形・ 終わらせ方など)</b></p> <p>最後が下行形で終わる感じが 好きでした。</p> <p>最後伸ばして知覚して いてカタルに感じさせて 良かったです。</p>	<p><b>その他(歌詞の内容・イメージが伝わってくる? 鳥取をPRできているかな?)</b></p> <p>歌詞に 「鳥取」が 入りました。 心に残る曲です。</p> <p>歌詞が押韻が かいてあります。</p> <p>本歌にあるような 感じ良かったです。</p>




図 12. 中間発表を通しての気づきを全体で共有

**第5時: ◎学習のまとめをする。【グループ→個人】**

- ①各グループの作品を、i Pad のアプリ「Garage Band」を用いて録音記録する(図 13)。
- ②演奏を聴きながら学習を振り返り、学んだことを文章にまとめる。



図 13. 録音の様子

**4. 結果と考察**

**4.1. 結果**

授業を受けて生徒が記述したワークシートを、  
図 14～図 16 に示す。

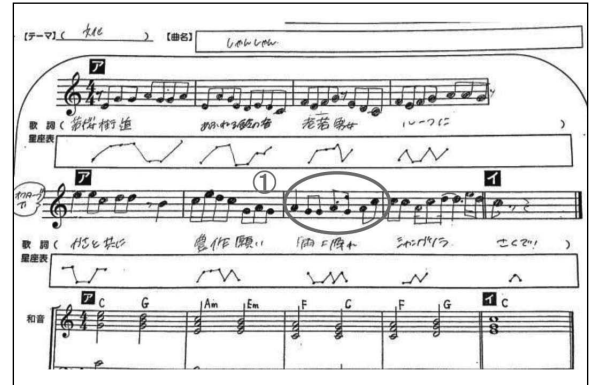


図 14. しゅんしゅん傘踊り PR ソング



図 15. 食のみやこ鳥取 PR ソング

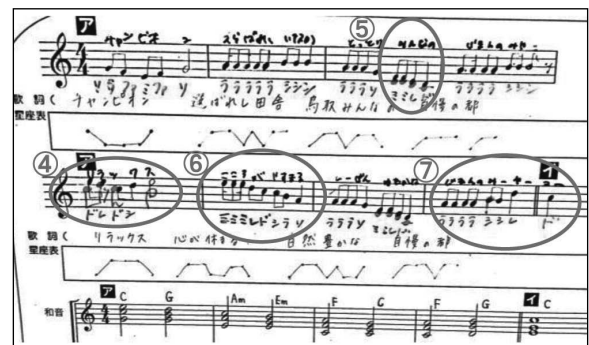


図 16. 住みたい田舎 No.1PR ソング

図 14 に示すワークシートを記入したグループは、言葉のもつリズムや抑揚を生かしつつ、図中①で示す付点のリズムを用いて踊りのイメージをより分かりやすく伝えようと工夫する姿が見られた。歌詞には、「鳥取しゅんしゅん祭り」の情景と共に、「豊作願い 雨よ降れ降れ」といった傘踊りに込

められた意味も表されている。既習事項や生徒自身の経験を活かしながら、男女問わず歌いやすくするにはどのような音域・音程が良いか、何度も歌いながら考える姿が見られた。生徒自身も、「この歌のこの部分が好き」と言った発言をするなど、完成した作品に愛着を持っており、授業後にも何度も歌い楽しむ様子が見られた。

図 15 に示すワークシートを記入したグループは、言葉の最初に 8 分休符や 4 分休符を取り入れ、言葉のもつリズムを活かそうと工夫する姿が見られた。最後に小節を跨いで現れる「ウェルカニ」という歌詞(図中②)を、聴く人に印象付けるために、言葉の前後に休符を取り入れる工夫がなされている。歌詞には、「来てみんないな」といった鳥取の方言も用いられている。また、中間発表を通して、はじめに創作していた旋律が和音進行に合わないことに気付き、使用する音を変更した様子も読み取れる(図中③)。

図 16 に示すワークシートを記入したグループは、中間発表を通して図中④で示す部分が、言葉の抑揚に合わず歌いにくく覚えにくいこと、音域が高すぎることに気付き、「リラックス」という言葉のもつリズムや抑揚を活かしてリズムや音程を変更し、さらに歌いやすい音程に下げたことが読み取れる。その他、はじめに創作していた旋律が和音進行に合わないことに気付き、音を変更した様子(図中⑤)や、4分の4拍子に入る音符の数を考え訂正した様子(図中⑥)が読み取れる。4分音符の「シ」の音の棒の向きは、見る人にとって上下どちらが分かりやすいか(図中⑦)、など細かな部分まで話し合い、既習曲の楽譜を使って自ら調べようとする姿も見られた。

他のグループでは、「星取県」「日本遺産・獅子舞」「マンガ王国鳥取」「鳥取砂丘」「山陰海岸ジオパーク」などをテーマとして、PR ソングの創作を行った。グループで創作した歌詞は、語数も様々であったが、どのグループも、4分の4拍子8小節の拍子に合うよう言葉のもつリズムを活かしながらリズムを創作し、言葉の抑揚を調べながら、和音進行に合うようにするにはどの音が良いか試行錯誤しながら記譜を行うことができた。アウトタクトを用いて創作するグループもあり、既習事項を活用し、自分たちの作品に取り入れることで、楽譜

に対する理解をさらに深めることができていた(図 17)。

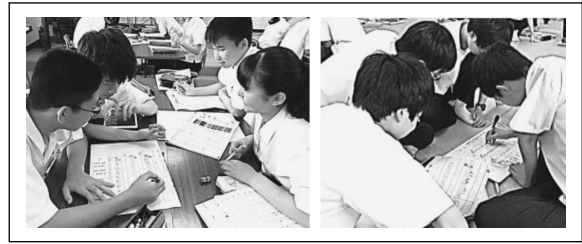


図 17. 教科書や資料を活用しながら記譜の方法を調べ、楽譜を作成する様子

作品の発表の際には、曲のイメージと、イメージを表現するために行った工夫について言葉で説明してから歌唱を行った。聴く側も、どのようなことが感じ取れたか、良さは何かという点について感じ取り伝え合うことができた。これらの活動を通しての気付きや改善点を再度グループで話し合い、思いや意図をもって作品を再考することができ、深い学びとすることができた。

また、振り付けを取り入れるグループもあり、自分たちの創作した曲をしっかりと覚え、全体の前で堂々と表現する姿も見られた(図 18)。



図 18. 完成した作品に愛着をもって表現する様子

#### 4.2. 作品の発表・地域への発信

創作した作品の中から、図 14 に示した「しゃんしゃん傘踊り」に関するものを、生徒主体で吹奏楽版に編曲を行った。地域の施設等で発表する機会を得ることができ、吹奏楽部の生徒が傘踊りともに披露した。図 19 に示す鳥取砂丘コナン空港の「空港フェスタ」では、東京からの観光客の方や県外の方を前に鳥取 PR ソングを発表し、鳥取を紹介することができた。多くの方から好評をいただき、生徒にとってとても良い機会となった。その様子を、翌日の学年集会で動画とともに紹介し、学年全体で達成感を共有することができた。

図 20 に示すイギリスの学生との交流会では、



図 19. 鳥取砂丘コナン空港でのPRの様子

本校を訪問したイギリスの学生に向けて、鳥取 PR ソングとともに、日本の文化・鳥取の文化を紹介することができた。海外の方に鳥取の文化を知っていただき、目の前で喜んでくださる様子を見た生徒たちは、とても嬉しそうなお様子であった。



図 20. イギリスの学生との交流の場で鳥取の文化の紹介とともに PR ソングを披露

図 21 に示す本校文化祭では、とりぎん文化会館梨花ホールで、会場いっぱいに鳥取 PR ソングを響かせ、保護者の方や地域の方にも聴いていただくことができた。



図 21. 本校文化祭での発表の様子 (とりぎん文化会館梨花ホールにて)

さらに、図 22 に示す鳥取市民会館で行われた「鳥取県東部中学校吹奏楽フェスティバル」でも、多くの聴衆の方を前に鳥取 PR ソングの発表の機会をいただき、他校の中学生にも本校の取り組みを紹介することができた。



図 22. 他校の中学生を前に発表を行う様子 (鳥取市民会館大ホールにて)

生徒にとっても、これら多くの発表の機会をいただきお客様の反応を直接体感したことで、大きな自信にも繋がり、改めて、鳥取の良さを感じることでできた機会となった。

### 4.3. 考察

授業後のアンケートの記述内容を、図 23 ～ 図 26 に示す。

<p>ただなんとなく歌詞やメロディーを考えるのではなく、自分たちだけの工夫ができたと思います。歌詞を考えるときは、資料を参考にしたり、前半と後半とでつづりがかりがでるよりにしたりすることができました。また、メロディを考えるときには、歌詞のイントネーションを表した星座表を意識したり、<u>星は静かで美しいメロディなので、高い音と低い音、あまり細かい音符を使わないようにしたりしました。</u>創作し始めた頃は、良いアイデアがうかばず、完成できるが心配でしたが、ペアの人や班の人と協力して意見を互いに話し合いながら活動し、良い作品をつくることのできたので頑張った良いと思います。歌詞にメロディーをつけるとき、星座表をもとに考える方法は、発音が自然で聴いて心地よく感じるのと、<u>音の高さは違っても同じリズムを刻むと、曲に統一感が出るようになりました。</u>また、<u>休符を効果的に使うと、歌詞にアクセントが出ると思いました。</u>他のグループの PR ソングを聞くのが楽しかったです。自分のグループの工夫点を知ることができて良かったです。</p> <p><u>4拍休符とか8拍休符を使う必要があるか分からなかったけど、ただの休符ではなくて音のバランスやリズムの調節に使えるなどあらためて実感しました。</u>どの班もいろいろな工夫をしていて、反復や最後の単語を強くしていたり、歌詞にいろいろな意味をこめるとかすごいな、と思いました。</p>
---





みんなのつくった曲を聞いて、今までに習ったことも生かして作曲して  
 いるのがすごいなと思いました。歌詞から鳥取の良いところを改めて  
 知れたり、初めて知ること(カニは鳥取が日本一など)もあって、楽しかった  
 ためになりました。みんなの曲を聞いて、自分たちのチームは歌詞が  
 足りなかったかなと思いました。作詞・作曲を通して鳥取の良さ  
 について改めて考えたり、新しく知ったりできて、とても良い  
 機会になったと思います。

作詞・作曲を初めて自分で行って、鳥取の良い所をたくさん  
 知り取りました。でも、鳥取の良い所をどれだけ伝わりやすく  
 伝えられるか自分たちが歌の中や曲のメロディの終り方などは  
 難しい所がたくさんありました。最初に自分だけで  
 考えた時に鳥取の良い所がリズムや音で表現でき  
 ないのかなと気付いて別の人もと意見を  
 アイデアをたくさん取りました。みんなで作って、  
 反復にやるかどうかなどたくさん意見を聞き合っ  
 て何度も改善して、最後に一番良い出来ものもの  
 になりました。他のクラスのみんなの発表を聞いて、反復を  
 作っているグループもあつた。自分達のグループもい  
 ちいち伝わりました。

う、つくることができたので良かったです。また、色々なグループの発表  
 を聞いて、鳥取にはたくさん良い所があるんだなと思いました。それ  
 ぞれのグループが、全然リズムや音の高さが違ったりして、  
 工夫できていて、面白かったです。自分達のグループにはないアイ  
 デアを他のグループが使っていたりして、勉強にもなりました。  
 自分のグループが特に意識したのは、カニの進行の和音の構成音を  
 生かしながら旋律をつくることです。これによって、メロディーを  
 つくると、とてもきれいなメロディーになりました。やはり、自分では  
 なかなか出てこないアイデアをみんなは持っている。そのアイ  
 デアを共有しながら、活動できたので良かったです。なかなか  
 作詞・作曲までやる機会はないので、今回できて良かったです。

大抵はみんなの曲を聞いて、他の4人の曲を聞いて、僕らには無い要素や、印象深い曲を  
 聞いてとても楽しかったです。今回の創作活動は初めてみんなで作って、発表する  
 自分達の曲が完成は良かったです。最初はみんなの曲を聞いて、終わりに少し理解して  
 う活動が楽しかったと思います。お疲れ様です。お疲れ様です。お疲れ様です。

3つ目はグループのメンバーと協力できたことです。先程の  
 正しい音取りの練習でもみんなが真剣に練習してくれてくれたもので  
 す。制作のときはどういった曲にするか考え、それに歌詞がはまるの  
 かが検討したり、分からない部分はピアノで弾いたり話し合いを深  
 めていくことができました。互いに教え合いができて、いい曲に仕上がった  
 と思います。4つ目は他のグループのPRソングに比べてどれもPR  
 したいところがあるから、上向形やカニの進行も意識したつくりが歌い  
 手、メロディーとあっていました。この学習を通して1人だと理解できな  
 かった友達と協力できると新たな意見や深い理解につながるのかなと  
 他グループでは振り回しているところもあって、余裕があればそれとて  
 鳥取PRソングをつくる歌詞を考えた時、鳥取の長所、特長を伝える事が  
 できました。始めの頃は文字数とリズムが合わなくて、困っていたり連符  
 や辞点、四分音符をつかうとリズムが合うように考えて、でも、  
 中間発表の時、いろいろな班から「辞点を付けて言葉に抑揚をつけ  
 る方がいい」と言われました。2人が考えて、班で合わせて、クラス全体が意見  
 を出さないと決断して、PRソングがよりよくなるように感じました。  
 他の班は自分達と違って、一カ所を4文字で区切る、全音符や二分音符を  
 使っている。一言一音を大切にしている班と感心しました。

今回は「鳥取をPRする」という目的のもと、作  
 曲に取り組みました。5人がそれぞれの意見を出し  
 合い、鳥取の文化(しゃんしゃん祭り)をうまくPRす  
 ることができたと思います。

作詞→星座表→作曲という流れがとても  
 良かったと思います。歌詞面では、「若桜街道」や  
 「しゃんしゃん」など具体的な言葉をたくさん入れて、  
 聞いた人が情景を思い浮かべやすいようにしまし  
 た。また、しゃんしゃん祭りの歴史を入れることは、P  
 Rする上でとても大切だと思います。

作曲面では、1つの曲としてバラバラしないよう  
 に心がけました。

前半が高音で後半が低く開いていくようにして、私は後半の方  
 を担当して、作詞した歌詞にどんな高さをあてはめればいいのか、とて  
 迷いました。星座表を書いてみて、C譜を使えば、どんな音にすれば  
 いいのか、みんなの意見を出し合って協力しながら作ることに  
 できました。今回、本格的な創作活動をしてみて、初めてだった  
 ので難しかったけど、みんなが楽しく取り組めたので、良かったです。  
 最後の感想を言うところでは「確かにその方がいいかな」と  
 気がつく人がありました。他のグループも歌詞がリズムが  
 工夫されていて、すごいと思いました。

曲を作るのはとても難しかったけど、基準となる和音がある  
 カニの進行があったので、何もない状態から作りやすかった  
 と思います。

何となくあるフレーズをアレンジしたり、鍵盤を叩いていろいろ  
 に自然に流れた意外なメロディなどを組み合わせると、いけるも楽し  
 かった。ただ、1人が考えたアイデアをみんなが制限が  
 ある。そういう時、他の人が考えたものを聞いて、「自分にはないメロ  
 ディだ」「前のグループと同じ」という風に思える。でも、一曲でみんな  
 が楽しんでいる感覚がすごくいいかな、と思う。

ただPRソングとして歌詞を考えた曲をつくるのは、個人的  
 には難しかった。曲のイメージやイメージを伝えるメロディをつくり、そこ  
 には個性があった。

自分達は1つ弾いたり、リズムをある程度のことから  
 うまくいけるように、練習のときは弾いたり、リズムを聴いて  
 長短の音階を示すこと、活動に参加している。班で役割を  
 分担して発表するときに、協力して作ることを、自分達の思いが  
 伝わるように、曲を1人で作るといって、難しいと思った。でも、  
 うまくいって、思いが伝わるように、歌詞を星座  
 表で表すと、1曲完成させることができた。  
 うまくいって、思いが伝わるように、歌詞を星座  
 表で表すと、1曲完成させることができた。  
 うまくいって、思いが伝わるように、歌詞を星座  
 表で表すと、1曲完成させることができた。

完成したときの達成感がとても気持ちいいです。気分  
 がいいでした。昔々、昔々ときと、和音の方が感じの  
 良い、明るい曲になるなと思いました。音符の音の長さが  
 変わると、苦戦したけれど、グループのみんなと  
 協力して作ることでできました。この曲で鳥取の良さを  
 伝えられたらいいなと思います。グループのみんなと  
 考えながら、作詞・作曲するのはとても楽しかった。  
 今回も、みんなの意見が、みんなの思いが、みんなの  
 うにしたいです。とてもとても楽しかった。

図 25. アンケートの記述 (グループ活動や全体活動からの学びについて)

今回の創作活動を通して、鳥取にどんないいところがあるのか一生懸命考えた。すると、思った以上に、鳥取のよいところを見つけることができ、鳥取を見直すよい機会となった。他の班の曲も聞き、それぞれ工夫されていて、いい勉強になった。

言葉のリズムや抑揚を参考に考えて作ることをやりました。いつもは曲も聴いたり、歌、下りるだけであまり作曲するとリズムがなかなかなので、鳥取PRライブ制作の時、前よりも曲の歌詞に少し興味を持つようになりました。いつもより経験ができて良かった勉強ができました。言葉の抑揚などは音程演奏したり、歌、下りるときにリズムをつけることなので自分で考えて、もと感情を込めて表現できるようにしたいと思えました。鳥取のPRライブ制作活動を通して鳥取の良さを見つけることができて良かったです。また、これまで見つけなかった良さがあると思うので、もっと調べてみたい。班で作曲したPRライブがクラスで共有できるといいかな、と思います。

今までの音楽では歌、下り、リズムをとりたりしてきて、和音も好きでしたが、この創作活動で、和音が好きになりました。歌詞に合うように自分たちで作曲して、楽譜、リズムや音程なども考えるのは少し難しかった、だけれど、先生の協力もあり、考えることができました。歌の歌詞、曲の雰囲気から砂丘の様子が伝わってくるような曲が完成して、鳥取をアピールできるような要素も取り入れたことができて、良かったです。クラス発表会では、他のグループの曲も聴くと、どれも良かった。でも、いろんなリズムや歌詞があって、おもしろい。鳥取の自然のいいところを改めて感じることもできました。音楽は個人の活動もあるけれど、みんなのものをくっつけて、さらにいいものができることを学ば

図 26. アンケートの記述（鳥取の良さを再発見した様子について）

図 23 に示すアンケートの記述では、言葉のもつリズムや抑揚の生かし方、音のつながり方、休符の取り入れ方によって旋律の雰囲気が変わることや、その面白さへの気付きについて記入されている。イメージを表現するために、音符や休符をどのように用いるか、思いや意図をもって創作した様子が読み取れる。

図 24 に示すアンケートの記述では、記譜や読譜を苦手としていた生徒が、今回の活動を通して音符や楽譜について一つずつ理解しようと努力し（図 17）、試行錯誤しながら曲を完成させることができ満足した様子が読み取れる。記譜については、既習曲楽譜やワークシートを見ながら、音符

の棒の長さやはたの向き、1小節に入る音符の数について自分たちで確認し、記録することができていた。五線譜に音符を書く活動により、より音符や楽譜についての理解が深まったことが確認できた。

さらに、リコーダーや鍵盤楽器の演奏技能について、それまで自信のなかった生徒が、創作活動を通して上達を感じたことが分かった。

また、今後音楽を聴く際に、「作者の伝えなかったことを考えてみたい」といった記入もあり、積極的に音楽に関わろうとする姿勢も読み取れる。

図 25 に示すアンケートの記述では、グループや学級全体の活動で仲間から学んだことや、その学び合いにより作品を完成させることができたこと、さらに、学級全体で共有できたことへの達成感や喜びについて記入されている。個人→ペア→グループ→全体→グループ→個人、という流れで学習を進めていく中で、考えがより広く、深まっていったことが確かめられた。また、創作の手順を、作詞→星座表→作曲としたことで、活動の流れが分かりやすかった、という意見が多かった。グループの全員が活動に取り組めるよう役割分担をしながら進めるなど、それぞれのグループで工夫をし、主体的、協働的に取り組む姿が見られた。

図 26 に示すアンケートの記述では、鳥取のよいところや、今まで知らなかった鳥取のすごいところについて発見した点が記入されている。

アンケート全体を通して、「鳥取を見直す良い機会となった」、「とても楽しかった」、「もっと音楽が好きになった」といった肯定的な意見が多く見られた。また、今後歌唱表現をする際に、「言葉の抑揚を考えながら、感情を込めて表現したい」といった意欲的な意見も見られた。

「新学習指導要領の展開」（福島 2017）によると、創作の学習で大切にしなければならないポイントは次の3点である。①あらかじめ、作りたい作品のイメージをもたせておくこと、②自分が出した音にしっかりと意識をもたせること、③創作活動に取り組むことの楽しさや喜びを味わわせること。今回の学習では、これら3点について満足させる学習活動を行うことができた。

#### 4.4. 授業を受けた後の生徒の変化

本授業を実施した後の合唱授業においても、パート練習の中で音楽用語を用いて活発に意見交換し、楽譜をよく見て、音符の長さや音程等を知覚し、作者の意図など楽曲を深く理解して音楽表現を高めていく姿が見られた。また、クラス全体で合唱曲の音楽記号や音符の長さを共通理解しようとする拡大掲示物を自主的に作成する姿も多く見られ、音楽表現の向上に対する積極的な取り組みが増加した(図 27)。



図 27. 合唱練習の様子

その他、和音やコード進行に興味を持ち、本校3年生が取り組んでいる「卒業研究」でのテーマに掲げ、学びを深める生徒や、作曲に挑戦する生徒も現れた。

以上の結果から、音楽の学習において、「学力を育む「やりくり」授業の開発」(鳥取大学附属中学校 2020)のポイントに基づいた題材を設定することにより、音楽の学習に対する生徒の取り組みに自発的な姿勢がみられ、深い学びによる音楽表現の向上が期待できることを明らかにした。

## 5. 今後の課題

今後も、生徒が主体的・創造的に学習に取り組むことができるような題材設定、評価基準の設定、ワークシート等について考え、生徒の思考力、判断力、表現力が高まっていくよう指導と評価について研究していきたい。また、生徒が必要感をもって協働的な活動に取り組んでいけるよう学習活動を設定し、他教科での学びとも関連付けながら、「やりくり」授業を創造していきたい。

## 文献

- 福島和久(2017)平成29年度版 中学校新学習指導要領の展開 音楽編. 明治図書出版. 114-115pp.
- 教育課程研究会(2016)「アクティブ・ラーニング」を考える. 東洋館出版社. 180-181pp.
- 中尾尊洋(2018)平成29年度鳥取大学附属中学校研究紀要「自立し、つながり、探求し、創造する力を育成する学校教育の研究」. 5-15pp.
- 中尾尊洋(2020)令和元年度鳥取大学附属中学校研究紀要「学ぶ力を育む「やりくり」授業の提案」. 3-6pp.
- 文部科学省(2017)中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編. 文部科学省
- 奥村理恵(2019)平成30年度鳥取大学附属中学校研究紀要「音楽創作活動における「やりくり」のたとえば～和音の構成音を生かした旋律づくり～」. 103-110pp.